You, Unlimited

More Curiosity

More Focus

RYUKOKU UNIVERSITY

音楽の価値は誰が決める？

植民地期の朝鮮の史実から文化接触と権力を読み解く。

学校で教える音楽、ラジオで流れる音楽、記録に残される音楽。何が価値のある『よい音楽』とされるかは、誰がどのような基準で選ぶかによっても変わるものである。植民地期の朝鮮を対象に、当時の音楽・教育・メディアに関する資料から、文化の価値を決める力と、そのなかで音楽を学び、演奏し、聴いた人々の経験や選択を分析し、当時の社会の姿を明らかにしたい。



金 志善　Kim Jiesun

所属｜国際学部 国際文化学科 准教授

専門｜日韓近代音楽史、音楽教育史、音楽文化史

韓国・中央大学校卒業。2006年東京藝術大学修士（音楽学）、2017年東京大学博士（文学）。2026年本学国際学部着任。『植民地朝鮮の西洋音楽受容と日本人の音楽活動』（民俗苑）が2022年韓国政府・文化体育観光部主催「世宗図書」学術部門に選定。『植民地朝鮮の西洋音楽』（青弓社）で2023年第4回東京大学而立賞受賞。

Academic Doors
対話で開く，研究の世界

龍谷大学
研究・社会実装推進部
つづきは研究者インタビューへ

Research Perspectives

01
植民地期の日本音楽受容の実態を新聞記事等の分析から考察。日韓音楽史の枠組みを広げる。（※1）

02
ラジオ放送の番組等の分析から日本と朝鮮の音楽が交わる過程と文化の変化を探る。（※2）

03
音楽・教育・メディアなど文化の価値を決める力と植民地統治の関係を問う。（※3）

（※1）科研費・若手研究（B）「在朝鮮日本人社会における音楽文化受容の一側面－当時のメディア情報を手がかりに－」（2017年4月-2021年3月）17K13349
（※2）科研費・若手研究「植民大都市『京城』の音楽文化研究：土着者・植民者文化の交差に着目して」（2021年4月-2026年3月）21K12865
（※3）科研費・基盤研究（C）「植民地朝鮮における音楽と文化権力－近代化と統治の交錯」（2026年4月-2031年3月）26K03502

科研費 KAKENHI